ISSN 2187-7270

大阪大学
アーカイブズニューズレター

THE UNIVERSITY OF OSAKA ARCHIVES

第 27 号　2026.03.31

目次：

昭和 51 年度大阪大学入学宣誓式	1	大阪大学五十年史の編纂の経緯と体制	6
全国大学史資料協議会２０２５年度総会ならびに全国研究会の開催	2	業務日誌（抄）（2025 年９月～2026 年２月）	7
総合学術博物館特別展に出陳	5		



昭和 51 年度大阪大学入学宣誓式

昭和 51 年４月９日、午前 10 時から入学宣誓式が大阪市中央公会堂で行われ、2,227 名が入学宣誓を行いました。『大阪大学学報』（識別番号 201500833）によると、若槻哲雄総長（第 10 代大阪大学総長）は新入生に「『初心忘るべからず』という言葉がありますが、いつまでもこの感激を忘れずに勉学につとめて将来、人類、社会に貢献するような人になって下さい」との告辞を述べています。

当時はいわゆる「大学紛争」のさなかであり、『大阪大学の動き』（識別番号：201701316）に記載された告辞全文によれば、新入生に「研究の自由」「教える事由」「学ぶ自由」といった思想や言論の自由の重要性を説くとともに、行動の面ではルールに基づいた正しい行動をとることを求めています。

全国大学史資料協議会 2025 年度総会ならびに全国研究会の開催

大阪大学ミュージアム・リンクス（アーカイブズ兼任）教授　菅　真城

2025 年 10 月 8 日（水）～ 10 日（金）に全国大学史資料協議会 2025 年度総会ならびに全国研究会が本学で開催されました。大阪大学は、この協議会に機関会員として加盟しています（担当部署はアーカイブズ）。8・9 日は豊中キャンパス、10 日は吹田キャンパスを会場としました。

10 月 8 日は理学研究科南部陽一郎ホールにおいて、役員会の後、総会が開催されました。この総会で、大阪大学が会長校に選出されました。会場校挨拶は、竹村景子理事・副学長が行いました。竹村理事は挨拶で、大阪大学は 2031 年に創立 100 周年を迎えるので担当理事として『大阪大学百年史』編纂のための準備に取り掛かったこと、外国語学部長時代の 2021 年に『大阪外国語大学・大阪大学外国語学部 100 年史 ：写真で振り返る 100 年』を編纂したことなどを述べ、全国からの参加者の来学を歓迎されました。



竹村理事

総会後の記念講演では、細谷裕名誉教授（核物理研究センター招へい教授）が「湯川秀樹・南部陽一郎と大阪大学」というタイトルで講演されました。細谷名誉教授は、湯川秀樹と南部陽一郎の二人のノーベル物理学賞受賞者と大阪大学との関わりについて述べられました。湯川は日本で最初にノーベル賞を受賞しましたが、その仕事は大阪大学でなされ、湯川は大阪大学で学位（博士）を取得しました。アーカイブズが所蔵している湯川の学位申請資料「発掘」の経緯とその内容についても紹介されました。南部については、「物理学の予言者」としてその略歴、理論と残されている史料について述べられました。最後に、湯川・南部史料の保存と後悔・発信の仕方とその意義について説明されました（講演スライド https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~hosotani/pdf/Yukawa-Nambu-atOU.pdf）。



細谷名誉教授



南部陽一郎ホールでの記念講演

講演後は、湯川・南部ゆかりの施設と史料を細谷名誉教授の案内で見学しました。まず南部ホール内に展示されている南部のメダル、賞状、ノートを見学しました。その後、南部陽一郎研究室に実際に入



細谷名誉教授の案内で南部史料を見学

り、机や書籍を見学しました。大セミナー室では南部史料 12 点を見学しました。さらに、コロンビア大学から移設された湯川愛用の黒板も見学しました。

福利会館生協食堂で開催された情報交換会では、大阪大学オリジナル日本酒「緒方洪庵」を参加者に試飲していただきました。この「緒方洪庵」については、その復興プロジェクトに携わった松永和浩ミュージアム・リンクス（適塾記念センター）准教授が説明されました。



日本酒「緒方洪庵」



10 月 30 日、松永准教授初日と同じく南部陽一郎ホールを会場として、全国研究会が開催されました。テーマは「大学アーカイブズを活用した年史編纂」です。これまでは、「年史編纂から大学アーカイブズ機関・機能へ」というフェーズでしたが、多くの大学で年史編纂がなされ、大学アーカイブズ機関・機能が整備された現在、「大学アーカイブズを活用した年史編纂」が重要な課題になるという問題意識からのテーマでした。大阪大学アーカイブズという大学アーカイブズの存在を踏まえて『大阪大学百年史』を編纂する大阪大学の課題に合致するテーマでした。このテーマに即して、早稲田大学、同志社大学、広島大学からの報告がありました。



全国研究会テーマ発題

第１報告は、早稲田大学の佐野智規氏による「しっかりしたアーカイブズに基づく確かな年史編纂－その理想と現実－」。早稲田大学においては「百年史編纂時収集資料から大学史資料センター（WUA）が創設され、それに基づいて百五十年史編纂が行われている」事例のように見えます。しかし①全学的文書管理体制への接続、②スタッフの中長期雇用、③承認済み計画の着実な実施・工程設計とその実施、それぞれの欠如という課題はいまだ解決されていないとし、試みに WUA 設置から歴史館改組後の現在までの年表を作成することで、根本解決ではないとしつつも実現可能な案を検討されました。



佐野智規氏（早稲田大学）

第２報告は、同志社大学の小林丈広氏による「同志社における大学アーカイブと年史編纂」。現在進行中の『同志社百五十年史』を素材に、その準備過程から現在までの歩みを、その時々における課題を紹介しながらたどりました。その中で、社史資料セン

ターとの関係は大きな課題だったので、その点についても触れられました。編纂途上の中間報告としつつも、同様の事業に関わっている全国の方々には何らかの参考になるのではないかと考えての報告でした。



小林丈広氏（同志社大学）

第３報告は、広島大学の石田雅春氏による「広島大学 75　年史と広島大学文書館－年史編さん事業とアーカイブズの関係について－」。2016～2025 年度に実施された広島大学 75 年史編さん事業を紹介されました。広島大学 75　年史編さん事業は、広島大学文書館（2004 年設置）を前提として進められました。そこで①アーカイブズ組織の無い状態での編さん事業との相違点、②編さん事業とアーカイブズ組織との関係性に焦点を合わせ、得られた知見を報告されるとともに、次の 100 年史に向けた課題を提示されました。

３報告の後、筆者と瀬戸口龍一氏（専修大学）を司会として総括討論が行われました。参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な議論が繰り広げられました。

日本では、大学史に限らず、自治体史、企業（社）史が諸外国に比してたくさん編纂されてきました。それぞれの組織や団体において、編纂からアーカイブズ機関設置までの展開については盛んに議論されてきましたが、この度の全国大学史資料協議会での



議論は、日本石田雅春氏で広島大学アーブズ機関



の存在を踏まえての年史編纂について複数の事例を踏まえての議論でした。日本のアーカイブズ史および史学史上、画期となる研究会でした。

10 日は会場を吹田キャンパスに移しました。まず、コンベンションセンターで筆者が「大阪大学アーカイブズについて－「国立公文書館等」とアーキビスト養成－」という講演を行いました。その後、吹田キャンパス内の各種施設を見学しました。共創イノベーション棟では、湯川秀樹の



筆者

学位論文を見学しました。銀杏会館では、医学史料展示室と医学系研究科岸本記念医学史料館展示室の二つの展示室を見学しました。最後の見学がアーカイブズです。細谷名誉教授が記念講演で紹介された湯川秀樹の学位申請書類は、閲覧室で参加者に観ていただきました。その後、書庫等のバックヤードの見学を行い、３日間の日程を終了しました。



医学史料展示室の見学



アーカイブズ閲覧室での記念撮影

大阪大学は 2031 年に創立 100 周年を迎え、百年史を編纂します。国立、私立という設置母体を超えた全国の多くの仲間から得られた知見を、阪大百年史編纂に生かしたいと考えています。

総合学術博物館特別展に出陳

総合学術博物館特別展「薬学のチカラで未来を創る－大阪大学薬学部のあゆみと挑戦－」が、2025 年 10 月 11 日～2026 年１月 16 日に待兼山修学館で開催されました。この展覧会に、アーカイブズ所蔵資料を出陳しました。

古くから薬のまちとして知られている大阪の地で、大阪帝国大学は 1949 年に新制大阪大学に切り替わり、それと同時に医学部に薬学科が設立されました。さらに 1955 年に旧帝大初の薬学部が設立されました。この展覧会では、大阪大学薬学部のはじまりから現在までの「あゆみ」と、未来に向けた現在の「挑戦」を、貴重な資料や実際の研究成果を通じて紹介するものです。ミュージアム・リンクス（総合学術博物館、薬学研究科兼任）の辻野博文准教授が担当されました。



展示会場エントランス

展覧会は、第１章　くすりのまち 大阪、第２章　大阪大学薬学部の設立・薬学教育、第３章　最先端の薬学研究、の３章構成で、第２章で下表のアーカイブズ所蔵資料９点が使われました。

No.	識別番号	特定歴史公文書等又は歴史資料等の名称
1	200700288	會誌　第四十一号
2	200700287	會誌　第四十三号
3	2013/総総/16	大阪大学薬学部設置申請書
4	2014/総総/46	大阪大学薬学部設置申請書
5	200700252	大阪大学薬学部 15 周年記念誌
6	200700253	大阪大学　薬学部新築落成記念誌
7	50Y1906	大阪大学要覧　　昭和 32 年度
8	50Y2604	大阪大学要覧　昭和 50 年度
9	202500442	大阪薬学専門学校　卒業アルバム　昭和 16 年発行

アーカイブズ出陳資料一覧





アーカイブズ出陳資料の展示の様子

大阪大学五十年史編纂経緯と体制

大阪大学ミュージアム・リンクス（アーカイブズ兼任）教授　菅　真城

大阪大学百年史編纂に資するために、大阪大学五十年史編纂の経緯と体制について、『部局史』と『通史』の「編集後記」から整理しておく。

1977 年 9 月 21 日の部局長会議において、創立 50 周年の記念事業等について予備的な相談をするため、「創立 50 周年記念事業準備委員会（仮称）」設置が承認された。委員は各部局の教授 1 名で、11 月 7 日の第 1 回準備委員会で「五十年史」を刊行することが大方の賛同を得た。この準備委員会は、「大阪大学創立五十周年記念事業委員会」とその下部組織としての「大阪大学五十年史編集実行委員会」の規程案を審議して発展的に解消した。この両規程は、部局長会議、評議会の議を経て、それぞれ 1979 年 2 月および 3 月から施行された。

五十年史編集実行委員会の委員は、部局（センターは含まない）の教授 1 名、庶務部長、経理部長、施設部長、学生部次長、附属図書館事務部長から構成され、中馬一郎医学部教授が委員長に、梅溪昇文

学部教授が副委員長に就任した。委員の中から、ワーキンググループとして幹事８名が選出された。この幹事によって、具体案が策定されていった。

五十年史の全巻構成は、通史、部局史、写真集の３本立てとすることで当初から一致していた。実行委員会の主な審議事項は、編集大綱、編集・刊行スケジュールについてであった。写真集は 1981 年の創立 50 周年記念式典までに刊行する必要があったので、「写真集小委員会」を設置した。編集実行委員会設置と同時に、３委員で目次案の検討が開始された。

1979 年７月１日、編集実行委員会内に「大阪大学五十年史資料・編集室」を設置し、編集、資料の収集・整理・保存、各部局との連絡・調整などの業務に当たることになった。室長は中馬編集実行委員長が兼務し、室員は教員（医学部助手、のちに助教授に昇進）１、事務補佐員１でスタートした。翌年には事務補佐員が１名増員され、室員は３名になった。編集室は豊中地区の附属図書館３階に置かれた。

1980 年３月に編集大綱、部局史執筆要項（含目次）を決定し、各部局に執筆を依頼した。1981 年３月 31 日に『写真集　大阪大学の五十年』を刊行した。翌４月、編集実行委員会内に「通史編集委員会」を置き、７回の会合で目次案の概略を作成した。これを受けて、通史編集専門委員（８名）と通史執筆専門委員（14 名）を委嘱し、「通史編集専門委員会」と「通史執筆専門委員会」が設置され、梅溪副編集実行委員長が委員長を務めた。通史の執筆が軌道に乗り始めた 1983 年からは、両委員会合同の「通史編集・執筆委員会」としてほぼ月１回開催し、執筆、資料の補充、目次の調整等を行い、通史の構成を決定した。

1981 年５月、五十年史の内容の充実と編集作業の円滑な進行を期すために『大阪大学史紀要』第１号を刊行した。この紀要は第４号（1987 年）まで発行された。1983 年３月に『大阪大学五十年史　部局史』を、1985 年６月に『大阪大学五十年史　通史』を刊行した。そして、五十年史資料・編集室は７月に閉室された。

編集実行委員会の設置から全巻刊行までには、６年の歳月を要した。大阪大学五十年史は通史、部局史、写真集という３巻構成で資料編を欠くが、紀要を刊行し、内容の充実を図ったのであった。

業務日誌（抄）　（2025 年９月～2026 年２月）

2025 年

・９月 13 日　菅教授、京都市出張。日本史研究会・教育史フォーラム主催「大学史・自治体史ミニフォーラム」―「新自由主義時代」下の国立大学・地方自治と歴史学」（平安女学院大学）に出席

・10 月 8～10 日
全国大学史資料協議会 2025 年度総会ならびに全国研究会を本学で開催

・11 月 13～14 日
菅教授、天草市出張。第 51 回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国（熊本天草）大会及び研修会に出席

・12 月 24 日　菅教授、和泉市出張。第３回和泉市文書管理委員会に出席

2026 年

・１月 19 日　菅教授、和泉市出張。第３回和泉市文書管理委員会に出席

・２月 12 日　菅教授、東京出張。東京大学文書館で法人文書の評価選別についてヒアリング調査

・２月 13 日　菅教授、つくば市出張。筑波大学アーカイブズを視察し、法人文書の評価選別についてヒアリング調査

・２月 17 日　廣田室長・菅教授、京都市出張。京都大学大学文書館で京都大学百年史・百二十五年史についてヒアリング調査

大阪大学アーカイブズ利用案内

・開室日

次に掲げる日を除く毎日

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(3) 12 月 29 日から翌年の１月３日までの日

・利用時間

午前９時 30 分～午後４時 30 分

・利用請求の受付

午前９時 30 分～正午、午後１時～午後４時

大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室　長　　廣田　誠（経済学研究科 教授）

〈兼任教員〉

【法人文書資料部門】

菅　真城（ミュージアム・リンクス 教授）
渡邉　肇（工学研究科 教授）
小野博司（高等司法研究科 教授）
中村征樹（全学教育推進機構 教授）
安岡健一（人文学研究科 准教授）
醍醐龍馬（法学研究科 准教授）

【大学史資料部門】

菅　真城（ミュージアム・リンクス 教授）
田口宏二朗（人文学研究科 教授）
宮本隆史（人文学研究科 准教授）
松永和浩（ミュージアム・リンクス 准教授）

〈事務担当〉

大阪大学総務部総務課文書法規係



大阪大学アーカイブズニューズレター　第 27 号

発行日　2026 年３月 31 日
編集発行　大阪大学アーカイブズ
〒565-0871
大阪府吹田市山田丘２－３
吹田キャンパス生命科学図書館４階
Tel. 06（6879）2421
Fax. 06（6879）2422
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/schools/ed_support/archives_room